

事業者排出量削減報告書

(あて先) 京都府知事		平
住所(法人にあつては、主たる事務所の所在地)	氏名(法人にあつては、名称及び代表者の氏名。記名押印又は署名)	
京都府城陽市寺田新池36番地	皇和電機株式会社 取締役社長 増山 晃章	
	電話 0774 - 55	

京都府地球温暖化対策条例第19条の規定により提出します。

特定事業者の主たる業種	電気機械器具製造販売 他に分類されない電気機械器具製造業
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上／タクシー150台以上／鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））
計画期間	平成 18 年 4 月 ～ 平成 20 年 3 月
基本方針	当社で製造する製品の開発・設計、製造、工事、販売及びサービスにともなう事業活動において、環境負荷の低減に取り組み、売上原単位でCO2排出量8%削減を目指します。

推進体制 社長を委員長とする環境委員会を設置し、ISO14001のシステムシステムに基づいて、部門長をそれぞれの組織の推進責任者として、目標の策定と実施に向けて活動を推進しています。

年度ごとの具体的な取組及び措置	年度	設備、対象、工程等	措置内容
	18~19	全事業所	クールビズ、ウォームビズの実施により空調用電力を削減します。
18~19	全事業所	休憩時間、不在場所は消灯し照明用電力の削減をします。	
18~19	全事業所	環境配慮製品の開発（環境適合設計標準の適用）	
18~19	本社工場全体	週2回の省エネデー（定時間内での業務終了）の実施をします。	

温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度(実績)	目標年度(計画)	削減率(計画)	報告年度(実績)	削減率(実績)
		(17)年度 (二酸化炭素換算(t))	(19)年度 (二酸化炭素換算(t))	(%)	(19)年度 (二酸化炭素換算(t))	(%)
A	事業所等排出区分	2,657 t	3,043 t	14.5 %	3,309.3 t	24.6 %
B	輸送車両排出区分	t	t	%	t	%
C	その他排出区分	t	t	%	10.659 t	0 %
	排出合計	*1 2,657 t	*2 3,043 t	14.5 %	*4 3,319.959 t	25.0 %

その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度(計画)			報告年度(実績)		
		取組量等	二酸化炭素換算(t)		取組量等	二酸化炭素換算(t)	
森林の保全及び整備	(整備面積) ha	(吸収量) t		(整備面積) ha	(吸収量) t		
府内産の木材の利用	(利用量) m ³	(削減量) t		(利用量) m ³	(削減量) t		
自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(発電量) kwh (熱供給量) GJ	(削減量) t		(発電量) kwh (熱供給量) GJ	(削減量) t		
グリーン電力の購入	(購入量) kwh	(削減量) t		(購入量) kwh	(削減量) t		
削減量等合計		*3 t		*5 t			

差引排出量 (排出合計-削減等合計)	基準年度(実績)	目標年度(計画)	削減率(計画)	報告年度(実績)	削減率(実績)
		*1 2,657 t	(*2) (*3) 3,043 t	14.5 %	(*4) (*5) 3,319.959 t

特記事項 1. 17年度を基準に19年度はCO2排出量は25%増加しているが、生産高原単位ではCO2排出量の8%以上削減目標にしており結果は、削減率一22.29%であった。
 2. 廃棄物ゼロエミッションへの取り組み(リサイクル率9.5%目標)
 3. 事務用品のグリーン購入・部品材料のグリーン調達を推進
 4. 地域美化清掃活動の実施
 5. LED信号機・照明の開発・販売による社会全体の省エネ活動への貢献

連絡先	担当部署	
	担当者氏名	
	住所	
	電話番号	
	ファクシミリ番号	

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業者等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者によって使用した車両の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業者等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」の実績については、計画期間中の実績の累計を記入してください。
 (例) グリーン電力の購入による温室効果ガスの削減実績が18年度5トンで19年度10トンの場合、19年度の報告書の実績については18年度と19年度の実績を累計し15トンと記入
 5 「特記事項」には、平成22年度(1990年度)を基準とした削減率(対比エネルギー原単位)の削減率、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の実用、特定分野などの業種指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。